**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：　「南北統一平和への旅」**

**お名前：　稲葉　親子**

(下記より本文をご記入ください)

「南北統一平和への旅」
札幌創成支部稲葉親子
①1950年8月27日私は生まれた。
朝鮮戦争真っ只中である。さかのぼること、その年の6月25日、朝鮮民主主義人民共和国軍（共和国軍）は午前4時雨音をはじくように五方向から38度線を突破、南進を開始した。
午後5時30分安保理は共和国軍の即時撤退を要求する決議を採択。
6月28日夜明けからソウル総攻撃にうつった共和国軍は午後11時ソウルを占領した。
私が温かい母の胸でその乳房を吸っていた頃
9月1日共和国軍は大邱に対して総攻撃を開始。
釜山にまで危機が迫っていた。9月15日マッカーサーは南にのびた共和国軍の腹部にあたる仁川に強行上陸を敢行。ソウルを奪回したが、38度線付近で膠着状態。３年１ヶ月にわたる激線は500万人もの死傷者を生み、1953年7月27日に「終戦」ならぬ「休戦」を迎えた。
当然ながら幼い私には知る由もない事であった。
②初めて韓国の地を踏んだのは1970年大学生の時だ。サークルの先輩に誘われ、然したる動機もない「ただ行ってみたい！」という程度のものだった。
朝鮮戦争以後ソウルには緑の街路樹も少なく、
当時戒厳令がしかれていて夜は外出禁止。呑気な私にも何か異様な雰囲気が伝わってきたのを覚えている。
あれから半世紀、50年以上、何度も、数えきれないほど韓国を旅行したことか・・・
③初めて朝鮮半島を統一した国家新羅の首都慶州。今は亡き愛する夫と一緒に荘厳な仏国寺、ユネスコ世界遺産に登録されている石窟庵を訪ねた。仏教美術史に残る最高傑作と言われる本尊の「釈迦如来坐像」には目を奪われた。忠清南道百済の首都であった扶余。
名物のウナギ料理に舌鼓を打ったこともあった。DMZ（非武装地帯）
板門店では緊張感で否が応でも分断された朝鮮半島、引き裂かれた民族の悲劇を生々しく痛感。「朝鮮特需」日本はその犠牲の上で大きな利益をえたことに複雑な罪悪感に胸を締めつけられた。
④私の本棚にいく度の引越しにも耐え、今も飾られている写真がある。2011年平和統一聯合主催「白頭山ツァー」の帰途、飛行機内から撮った『天池』（白頭山頂にあるカルデア湖）である。なかなか天池はその美しい姿を見せてくれないと聞いていたが、御多分にもれず登頂当日は嵐のような天候だった。あきらめきれない思いであったが
帰国の日、幸い窓側の席であったので、天池が眼下に見えた時は、思わず心ときめいてシャッターを切ったのだ。
白頭山は朝鮮人ナショナリズムの象徴であり
大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国双方の朝鮮民族代表的民謡であるアリランでも歌われている。
中国吉林省から、あたかも手が届くかのようにみえる共和国！人影が動いているのがうっすらとみえる！
北の同胞の暮らしがそこにあるのだ！
あたりまえの現実が迫ってきたのを昨日のことのように覚えている。
白頭山ツァーは今も私の記憶の中で圧倒的な位置を占めている。
南北分断、その起点が日本の植民地統治にあったことを知れば知るほど、日本人という立場を見つめざるをえない。又在日朝鮮人という方々が寄る辺ない民として日本に生き続けてこられた歴史的事実。
故郷は南の韓国であっても家族が共和国に帰還事業で渡り、簡単には会えない方々も多く
心の中で夢の中で家族を慕い続けてこられた在日の方々の心情には胸えぐられるようだ。
又朝鮮戦争の義勇軍として日本から自ら志願して戦った当時在日の学徒兵の話も知った。
④2024年私も来年には後期高齢者の身。
月日は容赦なく過ぎていく。
私は住み慣れた東京を離れ2年前から北海道札幌に住んでいる。
7月末には娘家庭と三世代同居の生活が始まる。
この10年ほど不思議なくらい在日コリアンの方々との出会いがある。
皆、今を懸命に生き、情にあつい方々ばかりだ。札幌には北海道唯一の朝鮮学校がある。
時々孫を連れてイベントに参加したり、少しばかりではあるが次世代を担う子ども達の為にと周囲の方々にキムチ支援などを呼びかけている。
⑤”私から始まる平和統一“書き始める前は、ちょっと大袈裟な題名では？と思ったりもしたが・・・
朝鮮戦争の年に生まれた私が70数年！
様々な旅、特に韓国への旅は平和に向かっていく私を育ててくれたのであり、確かに「平和は私から始まる、私の心から始まる！」
そして「南北統一は私の小さな一歩が種になり必ず大きな実を結んでいくのだ！」という思いが湧きあがってくる。
私にはどうしても行きたい旅がまだ残っている。そうだ、共和国、いえ統一された朝鮮半島に行く旅だ。
夢ではなく、生きて、この足で撤廃された38度線をこえて・・
必ず、必ず